



一般の人が見た初めての電気のひかり

東京銀座通電気燈

■住所
東京都中央区銀座2丁目
■交通アクセス
東京地下鉄
銀座駅 A13 出口 50m



錦絵に表れた「電気事業」事始 明治15年（1882） 東京電燈開業50年史

■日本で初めて電気の街灯が点灯

明治15年（1882）11月1日夜7時半、東京電燈会社（現東京電力の前身）は、創立事務所を設けた銀座2丁目大倉組前（現在の松屋銀座店の向い）において、会社設立と電灯の宣伝を目的に、アーク灯を点灯するデモンストレーションを行いました。

これは、一般の人が見た初めての電気の光りで、工部大学校において日本で初めての電気の光が輝いてから4年後のことでした。

同社の開業50年史には、「錦絵に表れた電気事業事始」として次のように記されています。

「……米国ブラッシュ商会ボッター・フヒップ両技師が出張し、その持参した発電機によって二千燭光の孤光燈を点火し、警視總監・府知事を初め朝野の紳士を招請して電気燈の公開実物宣伝を行った。上の絵はそのときの光景で瓦斯燈はおろか石油ランプさえ全国に行きわたらないころのこととて、電燈の光芒に全く肝をつぶし、“世界で一番明るいのはお太陽様その次はお月様、三番目はこのアーク燈だということで、引きも切らさずの人だかり”……。また、11月4日の東京日日新聞には「室内に5馬力の蒸気を備え、電柱の高さ5丈（15メートル）折ふし雨降り出せ

しは遺憾なりし」などの記述があります。

大倉組の建物は左側手前、2階からアーク灯に向い電線が延びている様子が、又、側壁には電線を支持するための、碍子らしき丸い形状のものが描かれているのを見ることができます。

なお、アーク灯部は、3重のガラスで覆われ、最初につや消しガラス、次に透明ガラス、一番外は赤色ガラスで、青白いアーク光を赤くするための工夫がされていたようです。

■当時の地図での場所

次ページの左図は、電気街灯が点灯した2年後に発行された地図です。外掘りや河川が残っており、綺麗に区画整理がされています。銀座通り（銀座煉瓦街）には歩道があり、車道の歩道側には街路樹らしき表示もみられます。

■現在の状況

現在、外掘りや河川は埋められて高速道路やビル街になっていますが、道路などの区割りは明治時代とほとんど変わっていません。

アーク灯が点灯された場所は、松屋銀座店の向い側で、錦絵に描かれていた大倉組のところは、大倉組をルーツとする中央建物株式会社の大倉本



明治17年（1884）東京実測全図 京橋図書館所蔵



現在の地図（2008）

館ビルで、大倉の名前が残っています。

歩道には、一定間隔で建っている通常の街路灯より一段と背が高くスリムな形の記念灯が建っており、写真3のようなプレートが付いています。

また、大倉本館ビルの側壁にも写真2のようなブロンズのプレートが付いています。



写真1 記念灯（錦絵と同じアングルです）



写真2 錦絵を彫り込んだプレート 1×0.8m

■銀座通りの記念灯

現在の記念灯のランプ（写真4）は、水銀灯の一種であるメタルハライド・ランプ 1kWで、銀座通りの通常の街灯と同じ種類です。明るさは、当時のアーク灯に比べ約4倍です。

記念灯の初代は、昭和31年に、電気供給事業70周年、銀座通連合会東京500年祭参加、照明学会40周年の記念事業として、関東電気協会、東京電力株式会社、銀座通連合会、照明学会の4者が協力して、わが国最初の電気街灯建設の地に建てられました。現在の三代目は昭和61年に立替えられました。

灯具意匠は、国立公文書館に保管されている東京電燈会社から東京府に提出された「電気燈建設願書」の図面に基づいて、当時のアーク灯に近似して製作されています。



写真3 ボール下部には建立した4者の名が記されています。

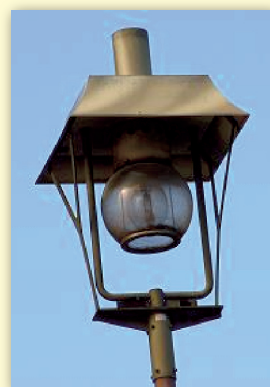


写真4 記念灯ランプ部